

# ネイチャー高知

No 44

2015年1月31日発行

新連載

## スミレに恋して

細川 公子

### 連載ですかあ！

1月12日に当会事務局の坂本彰さんからネイチャー高知への原稿依頼のメールが届きました。// ああ・・・いつもの同報メールやろ// と知らぬふりを決め込んでメールを開くと、// いやっ！個人宛！やられたあ！！// 無視する訳にはいかないと思いつつも、なにせ突然の話に、私に何が書けるのか考え込んでしまいました。坂本さんからは「高知のスミレ」で連載記事を、内容は種の特徴や観察のポイントなどについて、あるいはエッセイ風でも・・・ということでした。種云々について私には目新しいことは書けないし、図鑑を観た方がずっと手っ取り早いと思います。と、いう訳で、ついでにタイトルの「高知」も外してもらい、自分とスミレに纏わることを自由に書かせていただくことにしました。

私がスミレに関わって30年以上になりますが、知れば知るほどスミレは奥深く、一筋縄では捉えられない手強い相手だけに尚更の魅力を感じてしまいます。そして、そんなスミレに恋した仲間と共に、春を待ちきれず、まだ1月中旬なのにスミレを探しに出かけてみると、里山の陽当りの良い林縁ではシハイスミレが早くも小さな花を開花させていました。

### 早春に咲くアオイスミレ

陽当りの良い里山や海岸近くの林縁では冬でも、シハイスミレやコスミレなどの花を目にすることができますが開花の中心時期として最も早く咲くスミレはアオイスミレです。2月の下旬から3月に半日陰の路傍や林縁で見られます。匍匐する地上茎を伸ばしてしばしば群生しているのを見かけますが、翌年には全く姿を消してしまうことが多いです。私も昔、福井町に住んでいた頃、庭に1株植えておいたら、1～2年後には家の周りを独占するほどに広がりました。でも、その次の年にはすっかり見えなくなっていました。花は貧弱で距は上向きに曲がり、可愛いとは言い難いスミレですが、春一番に咲く姿はなんともいじらしくみ

えます。高知中央部では海岸から少し離れた山麓にやや普通に見られますが、土佐清水など西南部と東部の室戸など確認されていない地域もあります。

四国には分布しないエゾアオイスミレは私の見たいスミレの一つでした。札幌在住の植物写真家・梅沢氏に情報をいただき、2011年の土佐植物研究会特別例会で北海道帯広近郊の剣山で撮影できました。

アオイスミレに比べて全体に大きく、ピロード状の毛が密に生えていて、立ち上がりっって匍匐茎は見られず、地上茎のないスミレのようでした。



アオイスミレ



アオイスミレの距は上向きに曲がる



エゾアオイスミレ

## スミレ観察会のお知らせ

恒例のスミレ観察会は3月下旬を予定していますが、観察会の適地が無く、場所の再検討をしている段階です。場合によっては少し標高の高いところになって、開催時期も遅くなるかもしれません。決まりましたらお知らせします。

## 星の降るところ

田城 光子

三原村は高知県の西南部に位置し、人口1700人足らず、四方を山に囲まれた高原の村である。近年、全国的にも絶滅が心配されているヒメノボタンの保護活動や、これまで四国には分布が知られていなかったヤマハンショウヅルの自生地が発見など、貴重な植物の生育するところとして注目されている。山の高さは400~800mでなだらか、空は思いのほか広い。外灯もほとんどなく、月が出ない夜には深い闇の上に降るような星空が展開する。子供の頃、祖母とふたりで夜道を歩いて家に帰ったことがある。圧倒されそうな星のきらめきと時々発生する流れ星、その下の氏神様の神社の杜の闇の深さは、ただただ恐ろしく、祖母の着物の袖をしっかり掴んで必死に歩いたことを思い出す。

その星のかけらがこぼれ落ちたかと思える光景がある。稲刈りの終わったあとの水田だ。たかが水田の雑草というなかれ。農家にとってはたしかに厄介な雑草だが、わたしには素晴らしいお花畑に思えるのだ。田んぼが一面黄色に見えるのは、ミミカキグサの大群生。三原ではこれを準絶滅危惧種だと言っても、だれも信用しない。それどころか、除草剤で駆除する農家さえある。ミズマツバ、ミズキカシグサ、マルバノサウトウガラシなども同様である。サウトウガラシやアブノメの花はあまりにも小さく、ルーペがいるがびっくりするほど美しい。スズメハコベも同じく、しかし大群生してカーペットを敷いたように秋の田んぼを緑色に染める。中でもわたしが注目したいのはホシクサの仲間である。高知県植物誌によれば、県内に自生するホシクサ科は、ヒロハノイヌノヒゲ、オオホシクサ、ホシクサ、イトイヌノヒゲ、イヌノヒゲ、クロホシクサ、ゴマシオホシクサ、ニッポンイヌノヒゲの8種及びヒロハノイヌノヒゲとニッポンイヌノヒゲの雑種の合計9種が記載されている。そのほとんどは分布が限られたものであり、全くホシクサ科が採集されていない市町村も多い中で、唯一三原村だけはすべてのホシクサ科が生育する。他の雑草と混生するとあまり目立たないが、群生し開花するとなかなか存在感があり、ホシクサ(星草)の名のとおり、夜空の星を連想させる。その一方で、イヌノヒゲ(犬の髭)とは、総苞片の長く伸びた様子からつけられた名だそうだが、姿、形、名前のすべてが、妙にわたしの好奇心をくすぐる植物になった。

ホシクサの仲間は、どれも水湿地に生え、葉は根生してロゼット状となり、花茎をたくさん出してその先端に頭花を一個だけつける。頭花は小さな雄花と雌花の集まりで基部には総



苞がある。頭花の色や形、総苞片の長さや葉の幅などである程度の識別はできるが、正確に同定するのは肉眼では難しい。頭花をばらして花の細部の形や毛の有無などを、顕微鏡やルーペで見る必要がある。そのために、専用の道具を夫が作ってくれた。木の枝で鉛筆大の柄をつくり先端にもめん針を差し込む。ピンセ

ットやこの道具を2本使って花を解剖する。実体顕微鏡での観察は、老眼にはかなりこたえるが、わたしにとってはとても楽しい作業である。ヒロハノイヌノヒゲとホシクサは、水田などにごく普通に生えている。クロホシクサは普通ではないが、三原ではたいへん多くみられる。イトイヌノヒゲとゴマシオホシクサは同じ湿地の中でわずかに生育していたが、その後地権者によって立ち入り禁止の札が立てられ調査に入れなくなったので、現存は確認できない。イトイヌノヒゲはその名のように花茎が非常に細く、萼片や花弁が2個で2数性というわかりやすい特徴がある。ゴマシオホシクサはクロホシクサによく似ているが、葉が大きく花床に毛がないことで、葉が細く有毛のクロホシクサと区別できる。山足の小さな休耕田は、星屑だらけ。オオホシクサ、クロホシクサ、ヒロハノイヌノヒゲ、ニッポンイヌノヒゲなどが、足の踏み場がないほど生えている。オオホシクサは花序に棍棒状の白い毛がたくさんはえているので、頭花が真っ白に見える。葉も大きく花茎もかなり長く伸び、全体が大きくなるのでとても見応えがある。ニッポンイヌノヒゲは、その名から日本固有のものかと思っていたら、保育社の原色日本植物図鑑に濟州島にも分布があると書かれていた。ミズゴケの生えた別の湿地では、イヌノヒゲが大群生する。ここには、ヒロハノイヌノヒゲとニッポンイヌノヒゲの雑種とされたものも生えていた。

ホシクサの仲間が生えるところには、ミズトンボや私の好きなカヤツリグサの仲間もごく当たり前にたくさん生えていて、蛇やまむしを気にしなければ、いつまでもしゃがみこんで眺めていたい場所である。しかし、こんな素敵なお観察場所も次第に様子が変わってきている。まわりの二次林を含めて耕作放棄、管理放棄され、あるいは埋め立てられてゆず畑になったり



し、乾燥化や自然遷移がすすんできている。水田では、稲刈りの後すぐにたがやされることが多く、水田雑草がみられる田んぼが急速に少なくなってきた。また農薬の使用によるものか、水田の植生が単調になってきている。覚えきれないほどたくさんの種類の植物が生える田んぼを見ると、炊きたての真っ白いご飯に思いがいきつく。多様性の高い田んぼでは、きっとおいしくて安全なお米がとれるんだろうな、と。

中学校の校歌の一節に「こよなくもうまし高原」と歌われているように、三原はどこにも負けない美しい村だと、わたしはいつも思っている。地上に降りたたくさんの星たち。いつまでも大切にしていきたい。

【写真はクロホシクサ 2013年10月21日三原村で撮影 撮影者 坂本彰】

\*\*\*\*\*

## 行事案内

### ～物部川に感謝する日～のぞいてみんかえ物部川

【日 時】 2015年2月22日(日) 10:00～15:00 (9:30開場)

【場 所】 高知工科大学講堂 (香美市土佐山田町宮ノ口185)

【主 催】 物部川に感謝する実行委員会、物部川21世紀の森と水の会

【共 催】 アクア・リプル・ネットワーク、高知工科大学

.....

#### 【プログラム】

◆午前 「学」の部 10:00～11:50

- ・「やっぱり大好き物部川コンテスト」表彰式
- ・「のぞいてみんかえ物部川～お話とクイズ～」
- ・「浅水代かき始めました。」 南国市農業協同組合 稲作部

◆昼食休憩 「食」の部 11:50～13:10

- ・販売 シカドッグ、シカバーガー他

◆午後 「楽」の部 13:10～15:00

- ・ミュージカル「いっしょに生きゆう物部川」

## 野山の拾い物 ケンポナシ

坂本 彰

大豊町にある梶ヶ森は若いころからよく登った山である。朝早く JR で豊永駅まで行き、そこから歩いて、登り4時間下り3時間が標準的な日程だった。豊永駅以外からのアプローチの可能で、一つ手前の駅の大田口から登って豊永駅に降るコースも良く利用した。いつのころだったか、頂上まで車道ができ、また、頂上付近に各種のアンテナが林立するようになって、私の山登りの対象の山から外れ、長い間登ることがなかった。最近になって車道を通る車やアンテナ群もあまり気にならなくなり、この山に再び登り始めた。何よりも、JR 利用であるから下山後すぐにある種の飲物を楽しむことができるは、昔と変わらない魅力である。

秋も深まった昨年11月中旬に、山の仲間と一緒にその梶ヶ森に登った。コースは大田口駅からのぼり豊永駅へ降りる反時計回りのルートである。紅葉が楽しめたのは山裾だけで、中腹から上の木々は葉を落とし、期待していたような風景にはお目にかかれなかった。

下山途中に佐賀山集落近くの登山道で拾ったのがケンポナシの枝、正確には花序の枝である。子供のころには、よく拾って食べた。比較的珍しい木で、しばしば遭遇するということではなかったが、干しぶどうのように美味しく、結構なごちそうであった。いくつか拾って持ち帰り詳しく調べてみると、花序と果実には褐色の毛がびしりつい



ており、ケンポナシではなくて、別種のケケンポナシであった。ケンポナシとケケンポナシとの間に違いあるとも思っていなかったが、両種の分布を見てみるとケケンポナシは県下全域に分布しているのに対しケンポナシは物部町の石灰岩地にしか分布していないとのこと。子供の時からケンポナシと教えられていたが、正しくはケケンポナシだったということか。

改めて、ケケンポナシの果実と花序の枝を見ているといくつか疑問がわいてきた。普通果実は鳥に目立つよう鮮やかな色をしているか、おいしい果肉で種子を包んで

いる。ところが、ご覧いただいたらわかるように、ケケンポナシの果実は実に目につきにくい。また、果肉でなくて花序の枝が肥厚してそこが美味しくなっている。秋になって果実が成熟した頃に花序の枝ごとぼたぼた地面に落ちるのも他の木の実とは違った仕組みで、どう考えても鳥に果実を提供して種子を運んでもらうような作りにはなっていない。「なんで？」と思ってネットで調べていくと生原喜久雄さんの解説文に行き当たった。それによると、この木は鳥に食べられることなく哺乳類のみに食べられるよう適応したものと思われるとのことである。種子を散布してもらうのを鳥でなくて哺乳類を選んだために、先に述べたような花序と果実の作りになっているということで合点した。花序を持ち帰り、おいしい枝の部分を食べて種は庭に捨てたが、ケケンポナシの種子散布の戦略にすっかり乗せられていたようだ。



果実：毛が多く「ケケンポナシ」であることが判る。

肥厚した花序の枝：落ちてくるころには干しぶどうのような味がする。

## 「ネイチャー高知」の原稿募集

「ネイチャー高知」は、高知県自然観察指導員連絡会の機関紙として、1月、7月の年2回発行しています。自然保護に関する主張やエッセイ、観察記録などどしどし投稿ください。

## 行事案内

### 第7回 えこらぼの文化祭 「ごはんも石油もエネルギー」

【日 時】 平成27年2月7日(土) 13:00~16:30

2月8日(日) 10:00~16:00

【場 所】 こうち男女共同参画センター「ソーレ」(高知市旭町三丁目115番地)

【入場料】 無料 ※一部有料の催しもあります。

【主なプログラム】

- ・環境活動団体・企業等によるブース出展
- ・子どもも大人も楽しめる「巨大迷路」
- ・ちびっこ大集合! ミニ迷路、木の玉プール、スライダー、84 はちよん積み木
- ・スタンプラリーとお楽しみ抽選会
- ・2014 学校 CO2CO2 削減コンテスト表彰式
- ・平成26年度 高知「環境絵日記」～まもりたい環境 高知家のたからもの～ 入賞作品展
- ・こどもエコクラブ壁新聞展
- ・オレの友達! 出てこいエコキャン! ～地球温暖化は妖怪のせい!?～
- ・環境の杜こうちの10年～みんなのエネルギーは何を生んだか～
- ・鏡川自然塾 活動成果の展示
- ・「えこらぼカフェ」おいしいコーヒーと交流スペース

### 生物多様性こうち戦略」ワークショップ (主催:高知県環境共生課)

- 「生物多様性×サービス」 生物多様性が支える暮らし～事業と生物多様性の関連を学ぶ～

日 時: 平成27年2月7日(土) 13:00~16:00

講 師: 四国環境パートナーシップオフィス 常川真由美 さん

- 「生物多様性×知る」 生物多様性って何?～「生物多様性」をわかりやすく学びます～

日 時: 平成27年2月8日(日) 13:00~15:30

講 師: 国連生物多様性の10年市民ネットワーク 坂田昌子 さん

【問合せ】 環境活動支援センターえこらぼ

〒780-0935 高知市旭町三丁目115番地 こうち男女共同参画センター3階

TEL: 088-802-2201 E-mail: center@ecolabo-kochi.jp

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報

NO 44

事務局 780-8075

高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰 方

TEL&FAX 088-850-0102

E-Mail s-akira@mvd.biglobe.ne.jp